

第一貨物 ベトナム企業と業務提携 ASEANニーズ対応

物流大手の第一貨物（山形市、武藤幸規社長）は8日、今後の成長戦略実現に向け、ベトナムの物流企業「インターログ社」（ホーチミン市、グエン・ドワイ・ミン社長）と資本参加を伴う業務提携契約に基本合意した。第一貨物本社で武藤、グエンの両社長が同日、覚書を締結。高水準の経済成長が続くベトナムをはじめ、東南アジア諸国連合（ASEAN）域内の物流ニーズに対応していく。

基本合意、覚書締結

ベトナムには約1500社の日系企業が進出し、日本と同様に高品質の物流に対するニーズが高まっているという。第一貨物では2014年4月、現地にハノイ駐在員事務所を設立。同

社が得意とする、荷主の違う小口の荷物を混載する事業のニーズを調査してきたほか、現地での提携企業を探していた。

業。ベトナム国内のほか、国際貨物輸送、通関事業などを手掛ける。ホーチミン市のほか、首都・ハノイ市、ハイフォン市、ダナン市に事業所を置くなど主要都市間のネットワークがある。



覚書を締結後、握手を交わす武藤幸規社長（右）とグエン・ドワイ・ミン社長

山形市・第一貨物

16年度の売上高は約7億円で従業員数は約120人。

業務提携は10月を予定し、第一貨物の社員1人がインターログ社に出向するほか、両社間で研修社員を1人ずつ相互派遣する計画。主にベトナムで生産された製品を日本に運ぶ際など第一貨物のトラックの混載事業、インターログ社のコンテナの混載事業の連携を模索していく。

資本参加では第一貨物が17年と20年の2回に分けてインターログ社の株式を取得。総額約1億6500万円を出資して発行済み株式の20%を取得し、役員派遣も検討する。

武藤社長は「両社の得意分野をうまく組み合わせるドア・ツー・ドアの一貫輸送などを検討していきたい」と説明。グエン社長は「互いに協力し、サービスの拡充を図りたい」と述べた。